

令和元年度

事業報告書

令和2年6月

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

目 次

1	管理部門	ページ
(1)	法人の概要	3
(2)	理事会・評議員会等	4
2	事業部門	
1	「精神障害者等」の社会参加への支援	
イ	精神科デイケア事業（こころのリカバリー総合支援センター）	
①	精神科デイケアの実施	
a	デイケア事業概況	5
b	令和元年度に在籍した通所者の概要	5
c	年度別通所開始者・終了者数	6
d	年度別通所終了者の理由	7
e	通所希望見学者及び受理面接者数	7
f	デイケア年間行事実施状況	7
g	関係団体の支援及び各種行事への参加状況	7
h	地域生活支援事業	8
②	OB会活動支援	
a	アフターケア（OB会）関連業務	8
③	家族会活動支援	
a	家族会関連業務	8
ロ	障害者就労支援事業	10
ハ	障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業	
(1)	多機能型事業所の運営	
①	就労継続支援B型事業所（こころカ・プロダクション）の運営	
a	メンバー構成	10
b	福祉手帳取得状況	10
c	通所者数	10
d	工賃	11
e	活動内容	11
②	就労移行支援事業所（ここスタ）の運営	13
③	就労定着支援事業の運営	14
(2)	相談支援事業所の運営	
①	ココクルの運営	14
2	精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及	
イ	精神保健思想の啓発普及と研修事業	
①	地域精神保健スタッフ等研修事業	
a	デイケア・事業所スタッフのための研修・講座	15
②	実習生、見学の受け入れ事業	
a	施設見学等来所者状況	15
b	実習受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ	15
③	各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業	15
④	市民講座の開催	15
⑤	障害者のスポーツ振興への協力	16
⑥	精神障害者に関する調査・研究事業	16
⑦	精神障がい者地域移行研修事業の実施 （北海道精神障がい者地域生活支援事業（地域移行研修事業））	
a	地域移行研修会	16
b	エリア別研修会	19
c	ピアサポーター研修	19
ロ	高次脳機能障害者支援事業等	
①	相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】	20
ハ	ひきこもり対策推進事業	
①	北海道ひきこもり成年相談センターの運営	
②	札幌市ひきこもり地域支援センターの運営	
a	相談支援実施状況	23
b	支援ネットワークの構築等	28
c	普及啓発	32

3	会計部門	
	貸借対照表	3 3
	正味財産増減計算書	3 5
	正味財産増減計算書内訳表	3 7
	財産目録	3 9
	財務諸表に対する注記	4 1
	収支計算書	4 4
	収支計算書に対する注記	4 6

4	監査報告	
	監査報告書	4 7

資料編

1	理事・監事・顧問・参与・評議員名簿	4 8
2	財団法人設立の経過等	4 8
3	施設の概要	4 9
4	基本財産	4 9

1 管 理 部 門

(1) 法人の概要

【事業内容】

公益財団法人北海道精神保健推進協会は、精神保健思想の啓発普及と精神障害者等(メンタルヘルスケアの諸問題を抱える人を含む。)の社会参加を促進し、精神障害者等の福祉の向上に寄与することを目的として運営しており、定款に掲げる事業は、次のとおりである。

- ・精神保健思想の啓発普及
- ・精神障害者等の社会復帰のための医療施設(デイケア及び診療所)の設置及び運営
- ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業
- ・障害者総合支援法に基づく一般相談支援事業・特定相談支援事業
- ・障害者地域生活支援センター等の相談支援事業に対する指導援助
- ・精神障害者等の就労・雇用に向けた支援
- ・地域精神保健・医療・福祉充実のための支援
- ・精神保健医療福祉に関する調査研究
- ・その他本会の目的を達成するために必要な事業

○法人の主な事業

精神障害者の社会復帰や社会参加の促進を図ることを目的に、精神科デイケア施設(独立型)である「こころのリカバリー総合支援センター」を運営するとともに、多機能型事業所として、就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」、就労移行支援事業所「ここスタ」、就労定着支援事業所を運営している。また、相談支援事業所「ココクル」を設置している。

「リカバリーセンター」では医学的管理のもとに、通所者への個別的相談や指導、社会的自立のための基礎的訓練、生活指導、作業訓練、レクリエーション、体力づくりなどを週間プログラムに沿って実施している。

また、北海道から委託事業として、高次脳機能障害者の受け入れ(平成16年度～)や精神障害者の入院から地域生活への移行支援事業の実施(平成19年度～)、「北海道ひきこもり成年相談センター」の運営(平成21年度～)を行うほか、札幌市からの委託事業として、「札幌市ひきこもり地域支援センター」(平成27年度～)の運営を行っている。

【役員】 理事10名・監事2名・顧問1名・参与1名・評議員11名

※氏名等資料編(56P)に掲載

【法人職員】(合計24名:常勤職員 14名、非常勤職員 10名)※R2.3.31現在

○「こころのリカバリー総合支援センター」

- ・常勤職員 10名〔所長(医師・理事長)、事務職員2名、精神保健福祉士5名、作業療法士1名、保健師1名、(精神保健福祉士・兼務1名)〕
- ・非常勤職員 2名〔医師1名、事務職員1名〕

○就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」

- ・常勤職員 2名〔管理者(精神保健福祉士)、職業指導員(精神保健福祉士)1名、〕
- ・非常勤職員 7名〔生活支援員(作業療法士)2名、目標工賃達成指導員 1名、調理員 4名〕

○就労移行支援事業所「ここスタ」

- ・常勤職員 1名〔就労支援員(作業療法士)1名(管理者(精神保健福祉士・兼務))、(生活支援員(精神保健福祉士・兼務))〕
- ・非常勤職員 1名〔職業指導員1名〕

○相談支援事業所「ココクル」

- ・常勤職員 1名〔管理者(精神保健福祉士)、(相談員(精神保健福祉士・兼務))〕

(2) 理事会・評議員会等

区 分	年月日、会場等	議事等の内容
当法人監事による平成30年度 決算等監査	令和元年5月22日 於：こころのリカバリー総合 支援センター	平成30年度 事業の実施状況、 予算執行状況、財産目録等関係 帳票の監査 (出席) 監事2名
令和元年度第1回理事会	令和元年6月11日 於：北海道立道民活動センター	平成30年度 事業報告、決算報 告及び令和30年度補正予算等 (出席) 理事8名、監事2名 顧問1名、参与1名
令和元年度第1回評議員会	令和元年6月26日 於：北海道立道民活動センター	平成30年度 事業報告、決算報 告及び平成30年度補正予算等 (出席) 評議員9名
令和元年度第2回理事会	令和2年3月18日 書面表決	令和2年度事業計画、収支予算 等
令和元年度第2回評議員会	令和2年3月27日 書面表決	令和2年度事業計画、収支予算 等

2 事業部門

1 「精神障害者等」の社会参加への支援

イ 精神科デイケア事業（こころのリカバリー総合支援センター）

① 精神科デイケアの実施

a デイケア事業概況

	H31	R1									R2				
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	計		
開設日数	21	20	21	23	21	20	22	21	21	20	18	20	248		
月間在籍者数 下段：高次脳再掲	145	144	149	147	146	149	151	149	151	152	151	151			
	14	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12			
延べ出席者数 (デイケア、ショートケア、デイナイトケア、ナイトケア) 下段：高次脳再掲	741	732	789	907	803	753	803	664	716	661	580	483	8,632		
	58	44	47	44	52	50	59	47	56	49	48	33	587		
通所開始 下段：高次脳再掲	4	3	5	0	1	3	3	3	4	2	0	0	28		
	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
通所終了 下段：高次脳再掲	4	0	2	2	0	1	5	2	1	1	0	11	29		
	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
一日平均出席数	37.1	36.6	35.9	43.2	36.5	37.7	36.5	33.2	35.8	34.8	30.5	23.0	35.1		

b 令和元年度に在籍した通所者の概要

表.1-1 通所者の件数

	男	女	計
前年度から継続	100	41	141
当年度に通所開始	16	12	28
計	116	53	169

表.2-1 通所者の年齢

年齢区分	男	女	計
10～19歳	3	4	7
20～29歳	22	13	35
30～39歳	34	15	49
40～49歳	39	11	50
50歳以上	18	10	28
計	116	53	169
平均年齢	38.8	36.5	38.0

表. 3-1 疾患別状況

	人数	構成
F2 統合失調症	56	33.1%
F3 気分（感情）障害	39	23.1%
F4 神経症性障害	17	10.1%
F6 人格障害	1	0.6%
F7 精神遅滞	2	1.2%
F8 発達障害	28	16.6%
F9 行動および情緒の障害	6	3.6%
G4 てんかん性障害	4	2.4%
G9 神経系のその他の障害	1	0.6%
高次脳機能障害（※）	15	8.9%
計	169	100%

※疾患別状況（高次脳機能障害内訳）

	人数	構成
F04 器質性健忘症候群	9	60.0%
F06 脳損傷、脳機能不全および 身体疾患による他の精神障害	3	20.0%
F07 器質性パーソナリティ行動障害	3	20.0%
計	15	100%

表. 4-1 通所年数

通所年数区分	通所者	終了者	計
1 年未満	25	3	28
1 年以上～3 年未満	31	14	45
3 年以上～5 年未満	25	3	28
5 年以上～10 年未満	43	6	49
10 年以上	16	3	19
計	140	29	169
平均通所年数	5年2ヶ月	4年6ヶ月	5年

表. 5-1 出席状況

通所日数区分	在籍者	終了者	計
50 日以下	86	29	115
51 日以上～100 日以下	23	0	23
101 日以上～150 日以下	12	0	12
150 日以上～200 日以下	12	0	12
201 日以上	7	0	7
計	140	29	169
平均通所日数	59.3	4.2	49.9

表. 6-1 終了時転帰

転帰区分	男	女	計
就労・就学	1	1	2
事業所	2	1	3
在宅	3	9	12
入院	2	3	5
死亡	1	0	1
その他	6	0	6
計	15	14	29

c 年度別通所開始者・終了者

（高次脳機能障害 再掲）

（単位：人）

年 度	通所開始者	通所終了者
昭和63年度～平成30年度 高次脳機能障害	868 (44)	721 (32)
令和元年度 高次脳機能障害	28 (1)	29 (3)
計	896 (45)	750 (35)

d 年度別通所終了者の理由

	年 度	就労・就学	事業所	在宅	中断	入院	死亡	その他	計
総数	昭和63年度～平成30年度 (高次脳機能障害 再掲)	126 (4)	165 (14)	138 (6)	40	214 (6)	7 (1)	31 (1)	721 (32)
	令和元年度 (高次脳機能障害 再掲)	2	3	12 (1)		5	1 (1)	6 (1)	29 (3)
	総計	128 (4)	168 (14)	150 (7)	40	219 (6)	8 (2)	37 (2)	750 (35)

e 通所希望見学者及び体験者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
見学・体験者数	精神科デイケア	4	3	0	2	2	2	6	2	0	0	0	1	22
	高次脳機能障害	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	6

f デイケア年間行事実施状況

月	日	行事名	人数(メンバー)
4	29	特別デイケア	33
5	1	特別デイケア	33
7	13	日帰り旅行	28
9	21	収穫祭	24
10	19	センター祭	50
11	2	特別デイケア	17
12	20	クリスマス会	31
12	28	年納め会	27
1	6	新年会	30
1	11	特別デイケア	19

g 関係団体の支援及び各種行事への参加状況

月	日	
4	18	IFリーグ(フットサル)参加
4	22	IFリーグ(フットサル)代表者会議
5	16	IFリーグ(フットサル)参加
6	20	IFリーグ(フットサル)参加
6	23	第10回北海道チャンピオンズカップ2019(フットサル)参加
6	28	家族療法学会
6	29	
6	30	
7	8	道回連総会打合せ
7	18	IFリーグ(フットサル)参加
7	21	道回連総会
8	8	IFリーグ(フットサル)参加
8	9	第24回全道精神障害者スポーツ大会(北家連主催)参加
8	30	札家連ソフトボール大会監督者会議
9	14	デイケア学会
9	15	
9	19	IFリーグ(フットサル)参加
9	30	札家連ソフトボール大会参加
10	7	
10	11	日本病院・地域精神医学会総会参加
10	17	IFリーグ(フットサル)参加
11	21	IFリーグ(フットサル)参加

月	日	
11	26	NPO法人オーク会理事会・総会
12	19	IFリーグ(フットサル)参加
1	16	IFリーグ(フットサル)参加
1	31	札幌家連体育大会監督者会議
2	20	IFリーグ(フットサル)参加
3	4	札幌家連体育大会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

h 地域生活支援事業

・地域生活支援業務

(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家族訪問及び同行支援	4	4	1	0	1	2	4	2	1	2	2	3	26
関係機関とのケース会議	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4
関係機関連携(電話・来所等)	7	1	2	6	2	5	8	6	7	4	1	1	50

・個別相談関連業務件数

()は高次脳再掲 (単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
メンバー	96 (4)	76 (0)	109 (0)	104 (0)	72 (0)	76 (0)	87 (0)	70 (2)	64 (0)	88 (2)	66 (0)	96 (0)	1004 (8)
OB	4 (0)	2 (1)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	5 (1)	27 (2)
家族	14 (4)	3 (1)	6 (0)	16 (0)	12 (0)	3 (1)	3 (0)	15 (0)	9 (0)	9 (0)	7 (0)	0 (0)	97 (5)
一般	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	3 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (3)	0 (7)	12 (15)

② OB会活動支援

a アフターケア (OB会) 関連業務

月	日	曜日	内 容	場 所	参加人数
8	20	火	幹事会 (交流会の企画)	こころのリハビリ総合支援センター	3
11	9	土	元気でやっとなる会 (交流会)	ポレール&糧とく (札幌市中央区)	8
2	13	木	幹事会 (交流会の企画) 機関誌 (こまん・たれ・ぶー) 編集・発送	こころのリハビリ総合支援センター	3
4	4	土	元気でやっとなる会 (交流会) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		

③ 家族会活動支援

a 家族会関連業務

(単位:人)

月	日	曜日	内 容	出席人数
4	3	水	発送	3
4	17	水	総会 役員会	19
5	8	水	発送	3
5	15	水	阿部所長講話 陶芸	15

月	日	曜日	内 容	出席 人数
6	5	水	発送	3
6	19	水	北海道開拓の村 散策	13
7	3	水	発送	3
7	17	水	デイケア交流 焼肉パーティー	9
8	7	水	発送	3
8	21	水	話し合い 陶芸	14
9	4	水	発送	3
9	18	水	スタッフを囲んで話し合い センター祭打ち合わせ	17
10	2	水	発送	3
10	19	土	センター祭	15
11	6	水	発送	3
11	20	水	ビデオ鑑賞 消しゴム版画づくり	12
12	4	水	発送	3
12	18	水	WRAP体験 話し合い	16
1	6	月	発送	3
1	15	水	新年会	16
2	5	水	発送	3
2	19	水	阿部所長講話 室内ゲーム	15
3	4	水	発送	3
3	18	水	中止（コロナウイルスのため）	-

ロ 障害者就労支援事業

ハ 障害者総合支援法に基づく福祉サービス事業

(1) 多機能型事業所（就労移行支援事業・就労継続支援B型事業）の運営

① 就労継続支援B型事業所（こころカ・プロダクション）の運営

令和元年度は、ピアスタッフを採用し、メンバーとの協働をさらに重視した活動を目指してきた。これまで続けてきた、コミュニティFMでのラジオ放送も継続しているが、ラジオ局を「FM あっふる」に変更し、放送エリアを拡大した形で取り組んだ。工賃向上を目指して、DVD制作と障害特性を表現した缶バッジ制作にも取り組んだ。これまで作ってきた、関係機関とのつながりを一層強めることを意識した1年であった。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、オンラインによる講義や研修への対応が迫られる。工夫しながら、仕事の幅を広げていくことが重要だと考える。

a メンバー構成（令和2年3月31日現在）定員14名

- ① 性別：登録者14名（男性12名、女性2名）
- ② 年齢：平均年齢41.4歳（最低20歳、最高52歳）
- ③ 障害状況：

疾患名	人数
身体障害	1
知的障害	3
精神障害	11
計	15

※（1名重複）

b 福祉手帳取得状況

手帳等級	人数
身体障害者福祉手帳1級	1
療育手帳B	1
療育手帳Bー	2
精神保健福祉手帳2級	9
精神保健福祉手帳3級	1
計	14

※（1名重複取得）

c 通所者数

① 通所状況

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数	15	15	16	16	15	15	14	14	14	14	14	14	14.7
平均通所者数	12.4	13.2	13.8	13.0	12.2	12.8	12.5	12.4	11.3	11.5	11.3	11.7	12.3
通所率	82.9%	88.0%	85.9%	81.5%	81.6%	85.6%	89.1%	88.6%	80.6%	82.0%	81.0%	83.4%	84.2%

②終了者の転帰

転帰	人数
精神科デイケア	3 名

d 工賃

令和元年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	総計・平均
工賃支給額	158,515	166,896	171,679	198,670	156,340	156,540	164,455	161,530	161,750	165,430	132,830	744,245	2,538,880
平均支給額 (月給)	10,568	11,126	10,730	12,417	10,423	11,181	11,747	11,538	11,554	11,816	9,488	53,160	14,646

e 活動内容

○行政との協働（委託事業など）の実績

市町村名
芦別市

○他の NPO・市民活動団体との協働の実績

団体名	摘要
柏町内会	行事参加等
白石東地区町内会連合会	役員研修、災害時システム構築会議、チームビルディング研修
白石かがやき園	イベントへの出店参加
JICA 北海道	ペーパーロケット打上げ
北海道地域ケアマネジメントネットワーク（北海道 CM ネット）	体験談報告
名古屋大学 小川先生	インタビュー
札幌診療福祉専門学校	高校生向けセミナー出展
きらりの集い in 東京	分科会実施
北海道精神保健協会	機関誌発送業務
高次脳リハ支援者会議	
ふくおか NPO センター	シェアミーティングオンライン参加
リジリエンス研究情報センター	ホームページ管理
ピアサポーター研修（こころのリカバリー総合支援センター）	分科会実施
リタリコワークス	事例発表会
和歌山ピア研修会（ネット会議）	

○講義実績

対象	件数
大学	10 校(12 学科)
専門学校	12 校 (2 学科)
社会福祉協議会	3
市区町村	1
公益社団法人	1
職能団体	1
就労移行支援事業所	1

○撮影・映像制作

団体名	内容
NP0 法人リカバリー それいゆ	撮影
高次脳リハビリテーション講習会	撮影・映像制作
浦河ひがし町診療所（田植え・稲刈り）	撮影・映像制作
佐々木敏明先生研修会（5回）	撮影・映像制作、冊子作製
札幌市ひきこもり地域支援センター・北海道ひきこもり成年相談センター	撮影・映像制作
日本家族療法学会北海道大会	撮影・映像作成
日本デイケア学会	撮影・映像制作
当事者研究全国交流大会（浦河町）	撮影・映像作成
べてるまつり in うらかわ（浦河町）	撮影・映像作成
地域オープン研修会 佐々木敏明先生研修会（帯広市）	撮影・映像作成
北海道老人福祉施設協議会（苫小牧市）	撮影・映像制作
小樽ショートフィルムセッション（小樽市）	撮影・映像制作
社会福祉法人麦の子会 行事・研修会	撮影・映像制作
中村喜人氏インタビュー収録（稚内市）	映像制作
門屋充郎氏インタビュー収録（帯広市）	映像制作
向谷地生良氏インタビュー収録（札幌市）	撮影

○実践報告・調査研究

2019 年 日本精神障害者リハビリテーション学会 第 27 回大阪大会
日本福祉教育・ボランティア学習学会 第 25 回北海道大会

○主な自主制作作品

作品名	摘要
第 6 回小樽ショートフィルムセッション提出作品「水晶あめ」	入選
「PSW 再入門ー継承と展望ー」 佐々木敏明氏	DVD・冊子販売
当事者がきく 北海道にゆかりのあるパイオニアの声 Vol.6 前田ケイ氏	DVD 販売
当事者がきく 北海道にゆかりのあるパイオニアの声 Vol.5 門屋充郎氏	DVD 販売
当事者がきく 北海道にゆかりのあるパイオニアの声 Vol.4 小栗静雄氏	DVD 販売
当事者がきく 北海道にゆかりのあるパイオニアの声 Vol.3 櫛部武俊氏	DVD 販売
実習生から精神保健福祉士へ～3年後の今 Vol.2～	DVD 販売

○ラジオ放送

放送局／周波数	タイトル／放送日時	放送回数	摘要
エフエム あつぷる 76.5MHz	「ここプロありのままラジオ ーファンキーで行こう！」 生放送／毎週（木） 14:30～15:00	46 回	R 元年 5 月 9 日より放送開始

○見学者来所状況

	総人数	通所 希望者	関係機関	教育機関	実習生	ボラン ティア	デイケア メンバー	その他
4月	5	2		2				1
5月	11	1	2	6	1			1
6月	12	1	5	1	5			
7月	23	1		16	5			1
8月	9		4	4	1			
9月	9	2	2	3	2			
10月	5			2	1	2		
11月	23	3	5	4	6	2		3
12月	7		3	1	1			2
1月	5		2	2	1			
2月	2		1	1				
3月	3	1	1					1
計	114	11	25	42	23	4	0	9

② 就労移行支援事業所（ココスタ）の運営

平成 28 年度 6 月に開設して以降の全利用者総数は 15 名となった。

平成 30 年度においての内訳としては以下の通りであり、数名が就労につながった。今後は、定着支援を継続するとともに、新規のメンバーの利用を獲得していく必要がある。

なお、今後就職後 6 か月を経て「就労定着支援事業所」の対象となる利用者があるため継続した支援を行いながら利用等の手続き等行っていく。

○利用者内訳（定員 6 名）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規利用	0	0	1	1	0	1	0	3	0	0	0	1	7
終了者	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	5
月毎 登録者数	3	3	3	4	4	3	3	6	5	5	5	5	

新規利用者

単位：人

内容	人数
デイケアからの移行	7
B 型事業所からの移行	0
その他	0

終了者の転帰

単位：人

内容	人数	備考
一般企業への就職	1	継続就業中
就労継続等への移行	1	B型事業所
中断	3	

令和元年度利用者の障害種別内訳

単位：人

障害種別	人数	手帳2級所持	3級	手帳無
精神	10	5	4	1
身体	0			
知的	0			
難病	0			

就職先種別（開設以降）

業種	建築業事務	車両販売	調理・給食	行政機関	通信業事務	リサイクル業	他
	1	1	1	1	1	1	0

③就労定着支援事業の運営

令和2年3月31日現在、継続して就労している利用者2名が登録している。利用対象者となりうる就労者は他にもいるが現状ではメールや電話での支援で対応している。今後必要に応じて就労定着支援への登録を勧め、支援の幅を広げていく。支援の仕方についても新型コロナの影響があり、沿革による対応を工夫していく。

（2）相談支援事業所の運営

① ココクルの運営

当法人では「精神障害者等の社会参加の促進」を目的としており、これまでデイケア通所者や家族等からの相談に応じているところである。障害者総合支援法に基づき、①就労支援事業やグループホーム等の障害福祉サービスの利用促進を図るため、②こころカ・プロダクションやその他障害福祉サービスの利用更新（概ね1年毎）のため、平成28年に相談支援事業所を開設し医療から福祉へ繋がる支援を行っている。

令和元年度の実績としては下記のとおりとなっている。

○相談実績（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	0	1	1	0	1	0	2	0	0	1	2	1	9
電話・メール相談	2	1	1	0	2	3	4	3	5	6	4	8	39
面接相談	13	10	11	15	12	16	14	11	13	9	8	8	140
訪問・同行支援	6	7	8	10	9	8	9	7	8	6	9	7	94
関係機関との連絡	10	8	9	8	13	11	10	8	9	12	10	11	119

2 精神障害者の社会参加を支える体制の整備及び啓発普及

イ 精神保健思想の啓発普及と研修事業

① 地域精神保健スタッフ等研修事業

a デイケア・事業所スタッフのための研修・講座

月	日	曜日	内 容	参加者
4	13～14	土・日	「オープンダイアログ」とはどんな実践なのか?～エッセンスに触れてみる入門研修～	34

② 実習生、見学の受け入れ事業

a 施設見学等来所者状況

月	日	曜日	内 容	人数
5	10	金	介護事業所東札幌ケアマネジャー	1
6	6	木	北海道保健福祉部福祉局	2
6	24	月	就労移行支援事業所リタリコワークス職員	2
7	5	金	北星学園大学福祉臨床学科学生	13
7	23	火	相談室ライト相談員	1
8	26	月	株式会社revos職員	1
9	12	木	石狩市民生児童委員連絡協議会障がい者福祉部会	24
9	13	金	日本デイケア学会北海道大会施設見学	6
10	2	水	NPO法人フィールズ職員	2
3	9	月	札幌なかまの杜クリニック職員	2
				54

b 実習生受入状況・教員会議及び訪問による打ち合わせ

内 容	人 数
福祉系学科（札幌学院大学・札幌心療福祉専門学校・日本医療大学）	3
作業療法学科（北海道大学・札幌医科大学）	2
看護学科（北海道医療大学）	8
医学部（北海道大学）	6
計	19
実習事前訪問対応	5回
実習指導者会議等出席	2回

③ 各種研修会への講師派遣及び企画運営の支援事業

社会福祉団体など関係機関の要請に基づき研修会への講師派遣や企画運営等への協力・技術支援を行っている。

④ 市民講座の開催

月	日	曜日	内 容	参加者
2	21	金	中小企業同友会に対する事業説明及び施設見学会	37

⑤ 障害者のスポーツ振興への協力

精神障害者のスポーツ振興の意味も含め、精神障害者団体への体育館貸出などへの協力を検討中である。

⑥ 精神障害者に関する調査・研究事業

事業名：ピアサポーターと協働した精神科「社会的入院」患者に対してのモチベーション・サポート実践～多施設合同事業（通称：院内茶話会）

目的	精神科での長期入院者（いわゆる社会的入院）に対して、病棟内でのグループセッション（茶話会）を定期的を実施することで、患者及び関係スタッフの退院（地域移行）へのモチベーションを高めるより良い方法論を探る。また、3クリニックが協働し、多施設合同研究として行うことにより、研究の拡大を図る。（※3クリニック～こころのリカバリー総合支援センター・札幌なかまの杜クリニック・ほっとステーション）
事業内容	3クリニックのそれぞれのピアサポーターと支援スタッフ（3クリニック所属の専門職）で構成する2チームがそれぞれに協力病院にグループ訪問を行う。協力病院にはいわゆる社会的入院患者を「茶話会」に誘ってもらい、グループとして関係性を構築していくことで、彼らの地域生活への意欲を高めると同時に、協力病院等の専門職（病棟看護師など）が精神障害者の持つ可能性を自ずと発見できる環境を形づくっていく。事業実施後、病院訪問中で、患者だけでなく、関わったピアやスタッフの内面にどのような変化があったかを、アンケートで測定しまとめる。
実施内容	〔桑園チーム〕 ・茶話会（5月・7月 計2回） ・打合せ（4月・6月・8月 計3回） ※4・8月は合同開催 〔五稜会チーム〕 ・茶話会（5月・7月 計2回） ・打合せ（4月・6月・8月 計3回） ※4・8月は合同開催

⑦精神障がい者地域移行研修事業の実施

（北海道精神障がい者地域生活支援事業（地域移行研修事業））

a 地域移行研修会

日 時	参加者数(当事者)	会 場（圏域）	内 容
令和元. 7. 16(火)	61名 (8)	砂川市地域交流センターゆう (北空知・中空知・南空知・留萌)	○解説「処遇の歴史・障害理解や対応について考える（歴史編）①」 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長 ○映画鑑賞「夜明け前～呉修三と無名の精神障害者の100年」 ○解説「処遇の歴史・障害理解や対応を考える（歴史編）②」 及び質疑応答 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長 ○事例を通して精神障害について学ぶ 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長 事例提供；地域生活支援センターぼぼろ職員 ○講義「処遇の歴史・障害理解や対応について考える（障害理解編）」 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長

日 時	参加者数 (当事者)	会 場 (圏域)	内 容
令和元. 11. 29(金)	29名 (3)	むろらん広域 センタービル (西胆振)	○講義「退院後生活環境相談員の役割」 ○講義「地域援助者（相談支援専門員）の役割」 ○演習Ⅰ「ニューロングステイの予防」 ① 「入院時から始まる退院支援」 ② 「退院に向けた取り組み～院内連携と地域連携」 ③ 模擬退院支援委員会 ○演習Ⅱ「社会的・長期入院者の退院に向けて」 ① 「地域から病院への働きかけ」 ② 「退院意欲の喚起」 ③ 「模擬ケア会議・カンファレンス」 ○講義「両者が大切にしたい視点と退院再考」 講師；尾形多佳士氏（さっぽろ香雪病院/日本精神保健福祉士協会常任理事） 元井昭紀氏（南空知地域生活支援センターりら/北海道精神保健福祉士協会）
令和元. 12. 6(金)	20名 (1)	とかちプラザ (十勝)	○講義「退院後生活環境相談員の役割」 ○講義「地域援助者（相談支援専門員）の役割」 ○演習Ⅰ「ニューロングステイの予防」 ④ 「入院時から始まる退院支援」 ⑤ 「退院に向けた取り組み～院内連携と地域連携」 ⑥ 模擬退院支援委員会 ○演習Ⅱ「社会的・長期入院者の退院に向けて」 ④ 「地域から病院への働きかけ」 ⑤ 「退院意欲の喚起」 ⑥ 「模擬ケア会議・カンファレンス」 ○講義「両者が大切にしたい視点と退院再考」 講師；尾形多佳士氏（さっぽろ香雪病院/日本精神保健福祉士協会常任理事） 西方教晃氏（札幌市精神保健福祉センター/北海道精神保健福祉士協会）
令和 2. 1. 22(水)	39名 (1)	釧路市交流プラザ さいわい (釧路・根室)	○講義「退院後生活環境相談員の役割」 ○講義「地域援助者（相談支援専門員）の役割」 ○演習Ⅰ「ニューロングステイの予防」 ⑦ 「入院時から始まる退院支援」 ⑧ 「退院に向けた取り組み～院内連携と地域連携」 ⑨ 模擬退院支援委員会 ○演習Ⅱ「社会的・長期入院者の退院に向けて」 ⑦ 「地域から病院への働きかけ」 ⑧ 「退院意欲の喚起」 ⑨ 「模擬ケア会議・カンファレンス」 ○講義「両者が大切にしたい視点と退院再考」 講師；尾形多佳士氏（さっぽろ香雪病院/日本精神保健福祉士協会常任理事） 元井昭紀氏（南空知地域生活支援センターりら/北海道精神保健福祉士協会）
令和 2. 1. 24(金)	83名 (7)	旭川市民交流センタ ーCoCoDe おびった (上川中部・上川北 部・富良野)	○講義「診察室で考えていること（仮）」 講師；土田正一郎氏（俱知安厚生病院 精神科診療部長） ○分科会 1 「精神科病院からみた地域移行支援から」 ケース紹介；旭川地域生活支援センター ピアサポーター 助言者；土田正一郎氏（俱知安厚生病院精神科医） 黒木満寿美氏（俱知安厚生病院 P S W） ○分科会 2 「それぞれが望む暮らしを実現するための 地域生活支援拠点等整備とは」 行政説明；飯嶋康祐氏（旭川市障害福祉課） 講義「旭川市における地域生活支援拠点等整備の方向性をさぐる」 講師；日向透氏（旭川知的障がい施設連絡会会長） ○シンポジウム「誰もが支え、支えられる上川圏域を創造するため に必要なことについて～精神障がい者の地域移行支援の視点から～」 シンポジスト；旭川地域生活支援センターセンター長 富良野地域生活支援センター長 道北地域生活支援センター長
令和 2. 2. 14(木)	58名 (3)	佐藤水産文化ホール (札幌)	○講義「日本社会が精神障害を扱ってきた歴史を学ぶ ～総論的理解とともに～」 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長 ○報告「札幌圏域における地域移行支援の実際」 報告者；千歳地域生活支援センターセンター長 ○グループに分かれての話し合い① ○実践報告「石狩ファミリアホスピタル茶話会の取り組みについて」 報告者；野村尚弘氏（石狩ファミリアホスピタル作業療法士） ○グループに分かれての話し合い②

日 時	参加者数 (当事者)	会 場 (圏域)	内 容
令和 2. 2. 18(火)	26名 (4)	遠軽町保健福祉 総合センター 「げんき 22」 (遠紋)	○趣旨説明「北海道における精神障がい者地域生活支援事業について」 報告者；こころのリカバリー総合支援センター職員 ○DVD 上映「地域生活を送る精神障害者を知ろう」 (平成 30 年度障害者総合福祉推進事業作成) ○報告「北網・遠紋圏域における精神障がい者地域生活支援事業について」 報告者；サポートネット北見センター長 ○講義「支援者に求められること～ひきこもり支援を通して考える」 講師；こころのリカバリー総合支援センター職員 ○グループに分かれての話し合い
令和 2. 2. 20(木)	31名 (8)	苫小牧市福祉ふれあ いセンター (東胆振・日高)	○趣旨説明「北海道における精神障がい者地域生活支援事業について」 報告者；こころのリカバリー総合支援センター職員 ○DVD 上映「地域生活を送る精神障害者を知ろう」 (平成 30 年度障害者総合福祉推進事業作成) ○報告「東胆振・日高圏域における精神障がい者地域生活支援事業について」 報告者；苫小牧地域生活支援センター職員 日高圏域精神障がい者地域生活支援センター職員 ○講義「日本社会が精神障害者を扱ってきた歴史を学ぶ ～総合的障碍理解とともに」 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長 ○グループでの話し合い
令和 2. 2. 28(金)	※中止 (新型コロナウイルスの感染拡大防止のため)	後志総合振興局 (後志)	○趣旨説明 報告者；佐々木香苗氏（北海道俱知安保健所主査） 土田正一郎（俱知安厚生病院精神科診療部長） ○講義「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムとは？【序章】」 講師；名雪和美氏（厚生労働省 相談支援専門官） ○グループに分かれての話し合い① ○グループに分かれての話し合い②
令和 2. 3. 3(火)		北見市総合福祉会館 (北網)	○趣旨説明「北海道における精神障がい者地域生活支援事業について」 報告者；こころのリカバリー総合支援センター職員 ○DVD 上映「地域生活を送る精神障害者を知ろう」 (平成 30 年度障害者総合福祉推進事業作成) ○報告「北網・遠紋圏域における精神障がい者地域生活支援事業について」 報告者；サポートネット北見センター ○「入退院に関わる制度や現状を知り、地域・医療連携について考える」 講義「精神科入院に関する法制度について」 講師；北海道北見保健所職員 - 報告；管内各精神科病院からの報告～円滑・適切な入退院支援のために～ 報告者；管内 4 精神科病院地域連携担当 P S W ○グループワーク
令和 2. 3. 6 (金)		稚内保健所 (宗谷)	○活動報告「宗谷圏域における精神障害者地域生活支援事業の状況」 報告者；サポートセンターゆかり ピアサポーター ○講義・演習「地域で支える精神障害者支援のヒント ～オープン・ダイアログを参考に①」 ○講義・演習「地域で支える精神障害者支援のヒント ～オープン・ダイアログを参考に②」
令和 2. 3. 11(水)		北斗市総合文化セン ター (南渡島・北渡島檜 山・南檜山)	○趣旨説明「北海道における精神障がい者地域生活支援事業について」 報告者；こころのリカバリー総合支援センター職員 ○DVD 上映「地域生活を送る精神障害者を知ろう」 (平成 30 年度障害者総合福祉推進事業作成) ○報告「地域移行体制強化病棟の取り組みについて (仮)」 報告者；社会医療法人函館博栄会 渡辺病院 ○報告「渡島・檜山圏域における地域移行支援の取り組みについて」 報告者；函館地域生活支援センター ○講義「医療機関から見た地域移行支援 (仮)」 講師；尾形多佳士氏（さっぽろ香雪病院/日本精神保健福祉士会常任理事）

b エリア別研修会

日 時	会 場	参加者	内 容
令和元. 8. 1(木) ～2(金)	佐藤水産文化ホール (札幌市)	5 5 名 (1 3)	【1 日 目】 ○研修の趣旨説明 ○講義Ⅰ「地域移行をすすめるためのヒント ～オープン・ダイアログを参考に～」 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長 ○演習①「圏域ごとで取り組みの振り返り」 ○全体共有 【2 日 目】 ○スキルアップ研修「コミュニケーションの別な方法～ リフレクティングを体験する」 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長 ○演習②「圏域を混ぜてディスカッション」 ○演習③「職種別ディスカッション」 ○演習④「圏域に戻って話し合い～ロードマップの作成」
令和元. 8. 22(木) ～23(金)	室蘭市中小企業センター (室蘭市)	5 1 名 (9)	
令和元 9. 5 (木) ～6 (金)	旭川市市民活動交流センター；1日目 旭川市科学館サイバル；2日目 (旭川市)	6 2 名 (1 2)	

c ピアサポーター研修

年月日	参加者 (当事者再掲)	開催場所	内 容
令和元 9. 25 (水) ～ 9. 27 (金)	6 9 名 (5 6)	かでの 2. 7	1 日 目 【開会式・オリエンテーション】 【講義】「地域移行をすすめるためのヒント～オープン・ダイアログを参考に～」 講師；こころのリカバリー総合支援センター所長 2 日 目 【分科会Ⅰ】 1 「サテライトセンターを活用した退院支援について」 報告者；地域生活支援センターしりべしピアサポーター 2 「私にとっての『パーソナルリカバリー』 ～障碍からリカバリーして見えてくる『ひと』としての悩み・目標～」 発表者；こころリカ・プロダクション 3 「一人になったときにどう暮らすか～そのために今できること～」 発表者；地域生活支援センターばぼろ ピアサポーター 【分科会Ⅱ】 1 「じぶんらしく」 発表者；地域生活支援センター・サハスネット ピアサポーター 2 「ピアサポーターと協働した精神科『社会的入院』患者に対してのモチベ ーションサポート実践～多施設合同研究」 発表者；こころのリカバリー総合支援センター所長 3 「ピアサポーターとリカバリー～高校生との交流と仕事の 苦労や悩みに向き合うことから～」 発表者；地域生活支援センターしりべし ピアサポーター 4 「ピアサポーター自身の精神の安定とリカバリーについて」 発表者；南空知地域生活支援センターりら ピアサポーター 【全体会】 3 日 目 【ワールドカフェ方式での話し合い】 テーマ；「分科会に参加して、何を感じたか」 【閉会式】

□ 高次脳機能障害者支援事業等

① 相談窓口及びリハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】

1. 支援プログラムの実施状況及び相談件数

○リハビリテーションプログラム実施状況（※通所登録者数は各月末時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通所登録者（人）	12	12	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	
実施回数（回）	21	20	21	23	21	20	22	21	21	20	18	21	249
延べ人数（人）	58	44	47	44	52	50	59	47	56	49	48	33	587
1日平均通所者（人）	2.8	2.2	2.2	1.9	2.5	2.5	2.7	2.2	2.7	2.5	2.7	1.6	

・新規登録者：1名

① A氏 40代 女性 くも膜下出血による高次脳機能障害

・終了者：3名

① B氏 20代 女性 交通事故による高次脳機能障害 終了理由：通所継続が困難

② C氏 30代 男性 交通事故による高次脳機能障害 終了理由：他県（実家）へ転居のため

③ D氏 40代 男性 もやもや病による高次脳機能障害 終了理由：再発による病死
〈登録者の動向〉

疲れやすさや高齢化から利用日数を限定し、特定のプログラムに参加している利用者や、身体的リハビリや事業所併用のため利用回数が限られている利用者もいる。

【プログラムの内容】

AM：全通所者による話し合いで構成される文化系活動

（カラオケ、カードゲーム、茶話会等）

全通所者による話し合いで構成されるスポーツ活動

（バドミントン、バレー、卓球等）

小グループ（クローズグループ）による話し合いで構成される活動

（料理、話し合い、外出等）

認知訓練 グループで行う認知訓練、個別プリント課題、FEP など

軽スポーツ エクササイズやヨガ等のゆるやかな運動

目的別の登録制のグループ活動（就労プログラム、心理教育、WRAP 等）

PM：全通所者による話し合いで構成される文化系活動

（カラオケ、カードゲーム、茶話会等）

全通所者による話し合いで構成されるスポーツ活動

（バドミントン、バレー、卓球等）

行事の企画運営グループ等

創作活動（陶芸、絵画、工芸）、話し合い系活動（歴史、英会話、茶道等）

行事への参加：日帰り旅行 センター祭 体育大会

※通所日数は、他機関との併用、体力や精神的疲労の度合いなど個々の状況に合わせて決定している。その中で複数あるプログラムから自分に適したプログラムを選択し参加する。（必要に応じスタッフがプログラム選択の助言を行う）

○相談支援件数と内容

	計
電話（家族・本人）	14
電話（関係機関）	24
来所相談	72
文書・メール	36
見学（家族・本人）	5
見学（関係機関）	1
計	152

【相談内容】

- ・本人～対人関係や生活上の悩みや不安、就労等への準備、日常生活における計画や手順の工夫など
- ・家族～関わりの苦労、工夫を聴くほか、本人と他の家族との意思疎通や目標確認
- ・医療機関（脳神経外科・リハ科・精神科病院、クリニック）～退院後の支援、リハビリテーションについて
- ・行政機関、就労支援・介護支援・相談支援事業所～受け入れ先について、対応困難なケースについて

○同行支援・家庭訪問と内容

- ・家庭での生活状況の確認や家事等の本人の自立に向けた助言、指導を行った。

○精神科医による診察

- ・外来診察 【36 件】

近年はデイケア利用者だけではなく、定期的な診察や生活支援のために利用する方も増えている。手帳の申請や、裁判に係る意見書を作成。

2. 支援計画の作成と評価

○新規支援計画の作成

医師の診断とコメディカルによる認知機能、ADL 評価を行い、今後必要とされる地域資源やリハビリプログラムの検討を行った。⇒関係機関との連絡調整中

○本人・家族の目標設定と振り返り

	実 施 内 容
4 月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
4 月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）
1 0 月	座談会（グループの中でのリハビリの振り返りとフィードバック）
1 0 ～ 1 1 月	定期面接（本人・家族同席での振り返りと目標設定）

3. 支援調整・検討会議の開催

○施設内支援検討会議

	回数	実 施 内 容
4 月	18	支援計画作成、支援計画の評価検討、対応の検討
5 月	3	対応の検討
6 月	3	対応の検討、支援計画の検討、
7 月	2	対応の検討、新規受け入れ会議
9 月	1	対応の検討
10 月	15	支援計画作成、支援計画の評価検討
11 月	2	対応の検討
12 月	2	対応の検討
1 月	1	対応の検討
3 月	4	対応の検討

○他機関との支援調整会議

実施日	参加機関	内 容
4月1日	本人、他県リハ病院、通院先病院 MSW、相談支援事業所、当センター職員	転居にあたっての今後の支援についての検討
12月17日	本人、夫、父、入院先病院職員2名、当センター職員2名	退院後の支援についての検討
12月20日	カウンセリングセンター職員、当センター医師	今後の支援、職場調整について
3月11日	本人、GH職員、相談室職員、当センター職員	今後の利用に関する検討、施設見学

○その他他機関との連携

実施日	関係機関	内 容
4月1日	障害者職業センター職員より	復職について
8月27日	回復期病院 相談員より	入院中ケースの退院後リハについて
12月20日	カウンセリングセンターより	職場との調整について
12月10日	回復期病院 MSW より	入院中ケースの退院後の支援について
実施日	関係機関	内 容
2月12日	回復期病院 MSW より	入院中ケースの退院後の支援について
2月28日	相談室 職員より	日中活動の場として利用相談
3月17日	包括支援センターへ	意見書作成

4. 関係機関相互の情報交換及び参加研修会等

実施日	実 施 内 容	主 催
6月26日	令和元年度 第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会	国立障害者リハビリテーションセンター
6月26日	令和元年度 第1回支援コーディネーター全国会議	国立障害者リハビリテーションセンター
7月10日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会	リハ講習会実行委員会
8月26日	高次脳機能障がい者支援事業委託事業者打ち合わせ会議	北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課
8月21日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会	リハ講習会実行委員会
11月6日	高次脳機能障害者 リハビリテーション講習会実行委員会	リハ講習会実行委員会
11月8日	令和元年度高次脳機能障がい者支援連絡会議	北海道保健福祉部福祉局 障がい者保健福祉課
11月9日	釧根脳外傷リハビリテーション講習会	釧根脳外傷リハビリテーション講習会実行委員会
11月30日	北海道 高次脳機能障害 リハビリテーション講習会	リハ講習会実行委員会

5. 支援ネットワークの構築

ホームページやパンフレット、研修会等で当施設を知った関係機関からの支援法や情報を求める連絡を受け、これまで確立したネットワークをもとに情報の伝達を行った。また、ケースを通じて就労継続事業所や保健師、介護支援専門員、訪問リハスタッフなどで支援目標の確認を共同で行うことや研修会の企画を共同で行うことで、お互いに相談でき対応の調整がしやすくなった。

6. 講演・講師派遣

○ 釧根脳外傷リハビリテーション講習会

日時：11月9日（土）

場所：孝仁会記念病院

内容：講演：所長 阿部幸弘

当事者体験談発表：当法人B型事業所通所メンバー2名

○ 高次脳機能障害リハビリテーション講習会について

北海道高次脳機能障害リハビリテーション講習会の実行委員会事務局として運営。

日時：11月30日（土） 13:00～16:00

場所：札幌コンベンションセンター

テーマ：その行動には理由がある！？～今日から使える暮らしの工夫～

ハ ひきこもり対策推進事業

① 北海道ひきこもり成年相談センターの運営

② 札幌市ひきこもり地域支援センターの運営

a 相談支援実施状況

1. 相談支援概要

○相談件数（北海道）（単位：件）

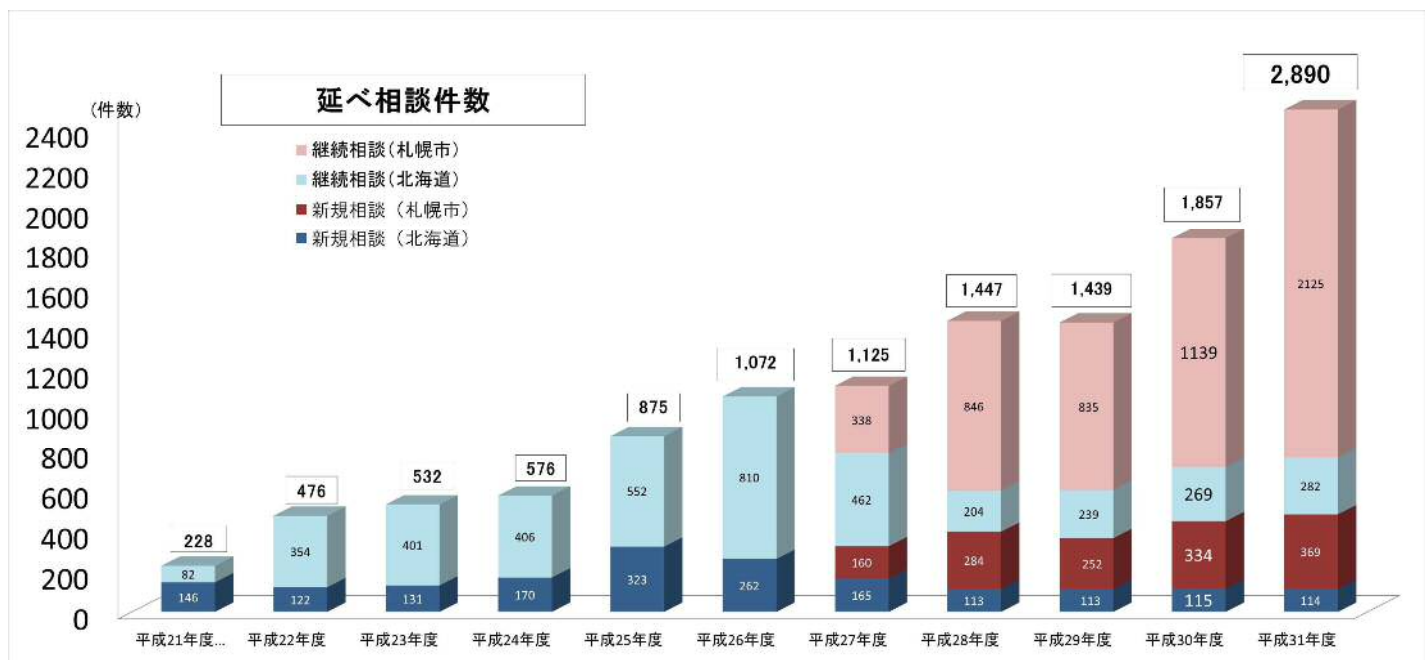
相談件数計	396
新規相談	114
継続相談	282

○相談件数（札幌市）

相談件数計	2,494
新規相談	369
継続相談	2,125

○相談件数（合計）

相談件数計	2,890
新規相談	483
継続相談	2,407



2. 相談方法別内訳

○相談方法内訳（北海道）

	新規	継続	統計	構成比 (%)
電話	82	45	127	31.1
来所	5	60	65	15.9
メール	17	172	189	46.2
アウトリーチ	9	4	13	3.2
出張相談等	1	1	2	0.5
小計	114	282	396	
連携	－	13	13	3.2
ケア会議	－	－	－	－
小計	－	13	13	－
計	114	295	409	100

○相談方法内訳（札幌市）

	新規	継続	総計	構成比 (%)
電話	266	241	507	19.5%
来所	26	742	768	29.5%
メール	44	972	1016	39.1%
アウトリーチ	3	115	118	4.5%
出張相談等	30	55	85	3.3%
小計	369	2125	2494	
連携	－	107	107	4.1%
ケア会議	－	－	－	－
小計	－	107	107	－
総計	369	2232	2601	100%

○相談方法内訳（合計）

	新規	継続	総計	構成比 (%)
電話	348	286	634	21.1%
来所	31	802	833	27.7%
メール	61	1144	1205	40.0%
アウトリーチ	12	119	131	4.4%
出張相談等	31	56	87	2.9%
小計	483	2407	2890	－
連携	－	120	120	4.0%
ケア会議	－	－	－	－
小計	－	120	120	－
総計	483	2527	3010	100%

3. 相談時間

○相談時間（北海道）

	0～ 15 分未満	15～ 30 分未満	30～ 60 分未満	60 分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	15	48	54	10	127	62:11	29 分
来所			9	56	65	73:00	1 時間 7 分
メール	125	56	8		189	40:5	13 分
アウトリーチ			5	8	13	14:25	1 時間 7 分
出張相談等		1		1	2	1:20	40 分
連携	3	8	1	1	13	4:30	21 分
計	143	113	77	76	409	195:31	29 分

○相談時間（札幌市）

	0～ 15 分未満	15～ 30 分未満	30～ 60 分未満	60 分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	141	191	157	18	507	201:6	24 分
来所	2	7	100	659	768	821:40	1 時間 4 分
メール	817	180	19		1016	193:5	11 分
アウトリーチ	2	1	13	102	118	183:15	1 時間 33 分
出張相談等			10	75	85	95:50	1 時間 8 分
連携	61	14	12	20	107	40:5	23 分
計	1023	393	311	874	2601	1535:1	35 分

○相談時間（合計）

	0～ 15 分未満	15～ 30 分未満	30～ 60 分未満	60 分以上	合計	延べ相談 時間 (時：分)	平均 所要時間
電話	156	239	211	28	634	263:17	25 分
来所	2	7	109	715	833	894:40	1 時間 4 分
メール	942	236	27	0	1205	233:10	12 分
アウトリーチ	2	1	18	110	131	197:40	1 時間 31 分
出張相談等	0	1	10	76	87	97:10	1 時間 7 分
連携	64	22	13	21	120	44:35	22 分
計	1166	506	388	950	3010	1730:32	35 分

4. 相談者内訳

○相談者内訳（北海道）

	件数	構成比 (%)
本人	26	22.8
父	10	8.8
母	40	35.1
両親	3	2.6
兄弟姉妹等	18	15.8
その他	17	14.9
計	114	100

○相談者内訳（札幌市）

	件数	構成比（%）
本人	68	18.4%
父	36	9.8%
母	153	41.5%
両親	13	3.5%
兄弟姉妹等	72	19.5%
配偶者	6	1.6%
その他	21	5.7%
計	369	100%

○相談者内訳（合計）

	件数	構成比（%）
本人	94	19.5%
父	46	9.5%
母	193	40.0%
両親	16	3.3%
兄弟姉妹等	90	18.6%
配偶者	6	1.2%
その他	38	7.9%
計	483	100%

5. 当事者の年齢

○当事者の年齢（北海道）

	男	女	不明	計	構成比（%）
10 歳未満	－	－	－	－	－
10 歳以上～15 歳未満	1	1	0	2	1.7%
20 歳未満	8	5		13	11.4%
20 歳以上～30 歳未満	26	8		34	29.8%
30 歳以上～40 歳未満	24	10		34	29.8%
40 歳以上～50 歳未満	13	3		16	14.0%
50 歳以上～60 歳未満	3	2		5	4.4%
60 歳以上	－	－	－	－	－
不明	7	5		12	10.5%
計	81	33		114	100%

○当事者の年齢（札幌市）

	男	女	不明	計	構成比（%）
10 歳未満	2	－	－	2	0.5%
10 歳以上～15 歳未満	5	4	1	10	2.7%
15 歳以上～20 歳未満	28	16	1	45	12.2%
20 歳以上～30 歳未満	71	24	－	95	25.7%
30 歳以上～40 歳未満	53	19	－	72	19.5%
40 歳以上～50 歳未満	45	24	－	69	18.7%
50 歳以上～60 歳未満	42	5	－	47	12.7%
60 歳以上	3	1	－	4	1.1%
不明	16	8	1	25	6.8%
計	265	101	3	369	100%

○当事者の年齢（合計）

	男	女	不明	計	構成比(%)
10 歳未満	-	-	-	-	-
10 歳以上～15 歳未満	6	5	1	12	2.5%
15 歳以上～20 歳未満	35	21	1	57	11.8%
20 歳以上～30 歳未満	97	32	0	129	26.7%
30 歳以上～40 歳未満	77	29	0	106	21.9%
40 歳以上～50 歳未満	58	27	0	85	17.6%
50 歳以上～60 歳未満	45	7	0	52	10.8%
60 歳以上	-	-	-	-	-
不明	23	13	1	37	7.7%
計	346	134	3	483	100%

6. 当事者の居住地

○当事者の居住地

（北海道）

圏域	
石狩	37
オホーツク	11
胆振	11
上川	10
空知	9
道内	9
後志	7
道外	6
渡島	4
釧路	4
十勝	3
根室	1
宗谷	1
檜山	1
日高	0
留萌	0
不明	0
計	114

（札幌市）

本人居住地	件数	構成比(%)
札幌市内	71	19.2%
白石区	35	9.5%
豊平区	36	9.8%
厚別区	24	6.5%
手稲区	26	7.0%
清田区	15	4.1%
中央区	43	11.7%
東区	27	7.3%
西区	23	6.2%
南区	27	7.3%
北区	42	11.4%
計	369	100%

7. 連携状況

	北海道（件数）	札幌市（件数）
他機関への繋ぎ	10	72
他機関からの繋ぎ	9	48
小計	19	120
主な機関	市町村福祉課 若者サポートステーション 医療機関（精神科） 等	各区福祉課・保護課 民間企業 医療機関（精神科） 医療機関（他科） 若者サポートステーション 地域包括支援センター 等

8. ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

○精神科デイケアへの通所（北海道）

	人数
平成 31 年度	0 名
平成 21～30 年度	38 名
計	38 名

○精神科デイケアへの通所（札幌市）

	人数
平成 31 年度	9 名
平成 27 年度～平成 30 年度	15 名
計	24 名

○精神科デイケアへの通所（合計）

	人数
平成 31 年度	9 名
平成 21～30 年度	52 名
計	61 名

○ひきこもり外来状況（北海道）

年 度	平成 21 年～30 年度	平成 31 年度	計
延べ回数	300 回	20 回	320 回
新規ケース	59 名	3 名	62 名

○ひきこもり外来状況（札幌市）

年 度	平成 27-30 年度	平成 31 年度	計
延べ回数	353 回	342 回	695 回
新規ケース	46 名	23 名	69 名

○ひきこもり外来状況（合計）

年 度	平成 27-30 年度	平成 31 年度	計
延べ回数	653 回	362 回	1,015 回
新規ケース	105 名	26 名	131 名

b 支援ネットワークの構築等

1. ネットワーク構築状況

北海道・札幌市ともに、関係機関に対する事業概要説明等を行った。各市町村、保健所からの問い合わせ、議員の見学来所、民間企業からの問い合わせ、インタビューや調査協力などがあげられる。

2. ひきこもり支援者連絡会議実施状況（北海道）

今年度も、「ひきこもり相談会・研修会」として、各保健所および市町村に希望確認をし、希望のあった地域と連絡調整をし、相談会等を実施した。希望確認の項目と実施状況は以下のとおり。

＜希望確認項目＞

- ①関わっている機関の職員が集まってのケース検討会
- ②個別相談（当事者、家族）
- ③ひきこもりに関する研修会
- ④その他

月	日	実 施 内 容	備 考
5	30	古平町 ひきこもり研修会（倶知安保健所）	・研修会講師
7	9	羅臼町 ひきこもり研修会（中標津保健所）	・研修会講師
7	10	小清水町 ひきこもり相談会（網走保健所）	・ケース検討（1件）
8	5	紋別市 ひきこもり研修会（紋別保健所）	・研修会講師
月	日	実 施 内 容	備 考
8	6	紋別市 ひきこもり相談会（紋別保健所）	・個別相談（1件）
8	19	江差町 ひきこもり研修会（江差保健所）	・研修会講師
8	20	江差町 ひきこもり相談会（江差保健所）	・個別相談（1件） ・ケース検討（1件）
8	29	上士幌町 ひきこもり研修会（帯広保健所）	・研修会講師
8	30	北見市 ひきこもり相談会（北見保健所）	・ケース検討（3件）
9	30	仁木町 ひきこもり研修会（倶知安保健所）	・研修会講師
9	30	共和町 ひきこもり研修会（岩内保健所）	・研修会講師
10	17	北広島市 家族会交流会（千歳保健所）	・研修会講師 ・ケース検討（1件）
10	29	池田町 ひきこもり研修会（帯広保健所）	・研修会講師
10	30	帯広市 ひきこもり研修会	・研修会講師
10	31	清水町 ひきこもり研修会（帯広保健所）	・研修会講師
11	5	占冠村 ひきこもり研修会（富良野保健所）	・研修会講師
1	8	小樽市 ひきこもり研修会（小樽保健所）	・研修会講師
1	29	旭川市 ひきこもり研修会（旭川保健所・上川保健所）	・研修会講師
2	18	千歳市 ひきこもり家族会学習会	・研修会講師

3 ひきこもり出張無料相談会実施状況（札幌市）

当センターの通常相談の開設日は平日の日中である。相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、「ひきこもり出張無料相談会」は各月4回程度（平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ）13:30～16:00に実施した。今年度は、計40回開催し、計85件の相談を行った（うち新規相談30件）。相談者数が最も多かった区は北区。次いで東区、手稲区、中央区・西区となっている。当センタ

ー(白石区)から遠方の区や、交通機関等の利便性の高い区に相談数が多いことが窺える。

実施にあたっては、当センターのホームページ、新聞掲載※、10 区役所・10 区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。各回、申込状況に合わせて、相談員を調整した。

※北海道新聞「さっぽろ 10 区」に掲載し周知宣伝した。2019 年 4 月～2020 年 2 月（計 8 回）

※「さっぽろ若者サポートステーション」との合同説明・相談会を 1 回実施したが、札幌市内の相談はなかった

4 ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実 施 内 容	備 考
3	20	令和元年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「今話せるひきこりのこと～経験者の語りから～」 インターネット配信期間：3/31(火)～4/26(日) 参加者内訳：札幌市外 52 名、札幌市 25 名	※ひきこもりサ ポーター養成研 修と同時開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため座学の開催を中止し、録画配信による「インターネット配信」研修会とした

5 ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実 施 内 容	備 考
		KHJ 全国ひきこもり家族会連合会全国大会 実行委員会 ※5/13、7/8、9/23、10/11	1 名参加
6	14	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第 1 回実務者会議	1 名参加
7	12	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議（横浜市）	1 名参加
9	18	令和元年度 第 1 回ネットワーク会議 (札幌市生活就労支援センター ステップ主催)	1 名参加
11	8	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第 2 回実務者会議および 令和元年度さっぽろ子ども・若者支援地域協議会	1 名参加
12	12	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第 3 回実務者会議	1 名参加
12	23	北海道子ども・若者支援地域協議会	1 名参加
12	23	北海道地域若者サポートステーション連絡会議	1 名参加
2	3	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議（神戸市）	1 名参加
2	17	石狩市こども・若者支援地域協議会実務者会議	1 名参加
3	12	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第 4 回実務者会議及び代表者会議	コロナウイルス 感染拡大防止の ため中止

6 講師派遣状況等

月	日	実 施 内 容	備 考
8	31	NPO 法人フリースクール札幌自由が丘学園主催 「孤立を防ごう 不登校・ひきこもり」	1 名派遣
10	5	ソーシャルワーカー協会「ひきこもり支援セミナー」	1 名派遣
10	12 13	KHJ 全国ひきこもり家族会連合会全国大会 (講師及び実行委員)	3 名派遣
11	8	青少年育成協会「ひきこもりについて研修会」	1 名派遣

月	日	実 施 内 容	備 考
1 1	1 1	本別町民生委員児童委員協議会による視察研修（※来所）	1名派遣
1 1	1 5	札幌市清田区ケアマネージャー研修会	1名派遣
1 1	2 6	厚別区自立支援協議会	1名派遣
1 1	2 9	砂川市地域生活支援センター「ひきこもりについて研修会」	1名派遣
1 1	3 0	一般社団法人北海道臨床精神薬理研究会 札幌市民フォーラム	1名派遣
1	2 4	札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 研修会	1名派遣
1	2 8	千歳保健所「ひきこもり家族交流会」	2名派遣
2	2 9	富良野地方精神保健協会 「ひきこもり、こころのつまずきに気付く、寄り添う孤立させないための支援」	1名派遣

7 外部研修参加状況等

月	日	実 施 内 容	備 考
6	9	「ひきこもり 8050 問題と命の危機予防を考える」	3名参加
1 0	1 2 1 3	K H J 全国ひきこもり家族会連合会 全国大会	3名参加

8 ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実 施 内 容	備 考
3	2 0	ひきこもりサポーター養成研修 「今話せるひきこりのこと～経験者の語りから～」 インターネット配信期間：3/31(火)～4/26(日) 参加者内訳：札幌市外52名、札幌市25名	※ひきこもり支援機関関係職員等研修会と同時開催
		研修会撮影・編集・DVD作成の依頼 (就労継続支援B型事業所 ここりか・プロダクション)	

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため座学の開催を中止し、録画配信による「インターネット配信」研修会とした。

※「ひきこもりサポーターの養成登録が本格化した場合にサポーター登録を希望するか」と希望調査も行っている。

※「ひきこもりサポーター養成研修協議会」は上記の理由から開催を見送った。

9 居場所「よりどころ」（親の会・当事者会）への専門職の派遣（札幌市）

NP0 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが実施している「よりどころ」に月2回参加し、精神保健福祉士等の専門職が相談に対応できるような体制を確保している。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、よりどころがきっかけで再相談に至ったケースもあった。また、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋

がるケースもあり、社会資源の1つになっている。

今年度は、当事者の会・親の会に11回ずつ参加をした。12回目もそれぞれ参加予定であったが、新型コロナウイルスの影響により開催中止になっている。親の会では、CRAFT 学習会、家族心理教育を用いて、家族対応の工夫等を伝えた。

c 普及啓発

1. 普及啓発実施状況

「ひきこもり」に関しての基本的な知識や、姿勢、支援方法等、正しい知識の普及に努めた。各テレビ局、新聞社から来所・電話による取材、当センターに相談している当事者へのインタビュー協力、リーフレットの郵送や市町村等の相談先への掲載等、各方面への対応をした。

2. インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解と支援団体、相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年 度	件 数	備 考
平成31年度	23,001件	
30年度	20,320件	

○昨年度に比べ増加している。テレビ報道、各新聞報道の影響があると思われる。

○6月4日（火）に490回のアクセスがあり、川崎市・東京練馬の事件を受け、当時の厚生労働相から「安易にひきこもりなどと結びつけるのは慎むべきだ」と最初に述べたと報道がされた日であり、ひきこもり地域支援センターへの相談への促しもあり、関連があったと思われる。

○ひきこもり出張相談のページには2,353件のアクセス、メールフォーム（初回メール相談）には435件のアクセスがあり、それぞれ関心の高さがうかがえる。

3 会 計 部 門

貸 借 対 照 表

令和 2年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	13,965,618	11,197,756	2,767,862
普通預金	13,965,618	11,197,756	2,767,862
未収金	17,346,824	18,756,465	△1,409,641
前払金	70,000	158,845	△88,845
流動資産合計	31,382,442	30,113,066	1,269,376
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	49,982,970	49,982,970	
諸貯金	17,030	17,030	
基本財産合計	50,000,000	50,000,000	
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	47,621,036	44,194,198	3,426,838
減価償却引当資産	39,471,608	48,760,608	△9,289,000
土地	347,016,000	347,016,000	
建物	497,434,011	497,434,011	
什器備品	24,030,809	24,030,809	
減価償却累計額 △	404,225,183	394,331,707	9,893,476
特定資産合計	551,348,281	567,103,919	△15,755,638
(3) その他固定資産			
構築物	7,414,959	7,414,959	
車両運搬具	2,207,755	2,207,755	
減価償却累計額 △	9,112,347	8,918,383	193,964
電話加入権	352,024	352,024	
預託金	45,460	45,460	
その他固定資産合計	907,851	1,101,815	△193,964
固定資産合計	602,256,132	618,205,734	△15,949,602
資産の部合計	633,638,574	648,318,800	△14,680,226
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	4,073,922	4,588,664	△514,742
未払消費税等	631,500	645,500	△14,000
前受金		224,000	△224,000
預り金	842,834	855,953	△13,119
流動負債合計	5,548,256	6,314,117	△765,861
2 固定負債			
退職給付引当金	47,621,036	44,194,198	3,426,838
固定負債合計	47,621,036	44,194,198	3,426,838
負債の部合計	53,169,292	50,508,315	2,660,977
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
地方公共団体補助金	130,880,685	139,517,858	△8,637,173
民間助成金	36,421	67,637	△31,216
寄付金	30,000,000	30,000,000	
受贈土地	347,016,000	347,016,000	
指定正味財産合計	507,933,106	516,601,495	△8,668,389
(うち基本財産への充当額)	(50,000,000)	(50,000,000)	()
(うち特定資産への充当額)	(457,933,106)	(466,601,495)	(△8,637,173)
2 一般正味財産	72,536,176	81,208,990	△8,672,814
(うち特定資産への充当額)	(45,830,561)	(56,375,864)	(△10,545,303)

貸 借 対 照 表

令和 2年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
正味財産の部合計	580,469,282	597,810,485	△17,341,203
負債及び正味財産合計	633,638,574	648,318,800	△14,680,226

正味財産増減計算書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	239,276	239,276	
特定資産運用益			
特定資産受取利息	936	545	391
事業収益			
診療収益	69,068,216		69,068,216
国保連合会収益		33,872,618	△33,872,618
社保支払基金収益		31,426,772	△31,426,772
デフレ自己負担金収益		5,109,180	△5,109,180
研修事業収益	272,000	67,500	204,500
就労支援事業収益	3,054,780	4,266,320	△1,211,540
訓練等給付費収益	26,758,465	30,512,058	△3,753,593
就労支援自己負担金収益	536,800	655,400	△118,600
計画相談支援給付費収益	534,886	619,314	△84,428
その他の事業収益	343,920	211,440	132,480
受取補助金等			
受取補助金等振替額	8,668,389	8,668,389	
北海道委託金	13,364,714	13,583,538	△218,824
札幌市委託金	11,203,020	11,099,160	103,860
北海道補助金		328,000	△328,000
札幌市補助金	168,000		168,000
受取寄付金			
受取寄付金	356,300	444,000	△87,700
雑収益			
受取利息	890	737	153
雑収益	552,062	434,884	117,178
経常収益計	135,122,654	141,539,131	△6,416,477
(2) 経常費用			
事業費			
給料手当	66,538,068	66,045,327	492,741
臨時雇賃金	10,015,722	9,227,382	788,340
退職給付費用	3,118,422	2,931,301	187,121
福利厚生費	11,394,932	11,015,744	379,188
旅費交通費	1,598,777	2,123,101	△524,324
通信運搬費	652,910	650,410	2,500
減価償却費	9,449,140	9,451,980	△2,840
消耗什器備品費	304,480	305,465	△985
消耗品費	2,762,671	3,265,980	△503,309
修繕費	501,110	497,667	3,443
印刷製本費	147,784	130,376	17,408
燃料費	1,325,631	1,190,464	135,167
光熱水料費	2,241,613	2,235,489	6,124
賃借料	1,989,147	1,849,162	139,985
保険料	564,072	506,146	57,926
諸謝金	2,284,500	2,368,000	△83,500
租税公課	1,255,007	1,141,977	113,030
支払負担金	488,778	544,934	△56,156
委託費	5,339,023	5,176,853	162,170

正味財産増減計算書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
雑費		4,105	△4,105
医薬材料費	2,711	4,032	△1,321
デイケア材料費	905,841	932,602	△26,761
利用者工賃	2,538,880	3,468,367	△929,487
支払手数料	970,760	1,369,924	△399,164
管理費			
役員報酬	59,200	118,400	△59,200
給料手当	12,281,987	12,030,139	251,848
臨時雇賃金	11,585	11,448	137
退職給付費用	308,416	289,909	18,507
福利厚生費	2,061,835	1,989,429	72,406
会議費	18,282	35,554	△17,272
旅費交通費	20,160	39,160	△19,000
通信運搬費	62,047	72,134	△10,087
減価償却費	638,300	635,778	2,522
消耗什器備品費	27,720		27,720
消耗品費	148,941	156,213	△7,272
修繕費	27,234	35,738	△8,504
燃料費	92,478	82,145	10,333
光熱水料費	134,836	139,065	△4,229
賃借料	58,974	56,149	2,825
保険料	67,528	60,004	7,524
租税公課	66,893	40,923	25,970
支払負担金	55,146	57,246	△2,100
雑費	48,588	27,922	20,666
支払手数料	144,916	226,205	△81,289
委託費	1,070,423	1,053,700	16,723
経常費用計	143,795,468	143,594,049	201,419
評価損益等調整前当期経常増減額	△8,672,814	△2,054,918	△6,617,896
評価損益等計			
当期経常増減額	△8,672,814	△2,054,918	△6,617,896
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計			
(2) 経常外費用			
経常外費用計			
当期経常外増減額			
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△8,672,814	△2,054,918	△6,617,896
税引前当期一般正味財産増減額	△8,672,814	△2,054,918	△6,617,896
当期一般正味財産増減額	△8,672,814	△2,054,918	△6,617,896
一般正味財産期首残高	81,208,990	83,263,908	△2,054,918
一般正味財産期末残高	72,536,176	81,208,990	△8,672,814
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	8,668,389	8,668,389	
当期指定正味財産増減額	△8,668,389	△8,668,389	
指定正味財産期首残高	516,601,495	525,269,884	△8,668,389
指定正味財産期末残高	507,933,106	516,601,495	△8,668,389
III 正味財産期末残高	580,469,282	597,810,485	△17,341,203

正味財産増減計算書内訳表

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	(公財) 北海道精神保健推進協会			合 計
	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益		239,276		239,276
基本財産受取利息		239,276		239,276
特定資産運用益	851	85		936
特定資産受取利息	851	85		936
事業収益	84,809,042	15,849,361	△89,336	100,569,067
診療収益	53,218,855	15,849,361		69,068,216
研修事業収益	272,000			272,000
就労支援事業収益	3,144,116		△89,336	3,054,780
訓練等給付費収益	26,758,465			26,758,465
就労支援自己負担金収益	536,800			536,800
計画相談支援給付費収益	534,886			534,886
その他の事業収益	343,920			343,920
受取補助金等	32,825,433	578,690		33,404,123
受取補助金等振替額	8,089,699	578,690		8,668,389
北海道委託金	13,364,714			13,364,714
札幌市委託金	11,203,020			11,203,020
札幌市補助金	168,000			168,000
受取寄付金	356,300			356,300
受取寄付金	356,300			356,300
雑収益	437,848	115,104		552,952
受取利息	890			890
雑収益	436,958	115,104		552,062
経常収益計	118,429,474	16,782,516	△89,336	135,122,654
(2) 経常費用				
事業費	126,479,315		△89,336	126,389,979
給料手当	66,538,068			66,538,068
臨時雇賃金	10,015,722			10,015,722
退職給付費用	3,118,422			3,118,422
福利厚生費	11,394,932			11,394,932
旅費交通費	1,598,777			1,598,777
通信運搬費	652,910			652,910
減価償却費	9,449,140			9,449,140
消耗什器備品費	304,480			304,480
消耗品費	2,762,671			2,762,671
修繕費	501,110			501,110
印刷製本費	147,784			147,784
燃料費	1,325,631			1,325,631
光熱水料費	2,241,613			2,241,613
賃借料	1,989,147			1,989,147
保険料	564,072			564,072
諸謝金	2,284,500			2,284,500
租税公課	1,255,007			1,255,007
支払負担金	488,778			488,778
委託費	5,339,023			5,339,023
医薬材料費	2,711			2,711
デイケア材料費	905,841			905,841
利用者工賃	2,538,880			2,538,880
支払手数料	1,060,096		△89,336	970,760
管理費		17,405,489		17,405,489
役員報酬		59,200		59,200
給料手当		12,281,987		12,281,987
臨時雇賃金		11,585		11,585
退職給付費用		308,416		308,416
福利厚生費		2,061,835		2,061,835
会議費		18,282		18,282
旅費交通費		20,160		20,160
通信運搬費		62,047		62,047
減価償却費		638,300		638,300

正味財産増減計算書内訳表
平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	(公財) 北海道精神保健推進協会			合 計
	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	
消耗什器備品費		27,720		27,720
消耗品費		148,941		148,941
修繕費		27,234		27,234
燃料費		92,478		92,478
光熱水料費		134,836		134,836
賃借料		58,974		58,974
保険料		67,528		67,528
租税公課		66,893		66,893
支払負担金		55,146		55,146
雑費		48,588		48,588
支払手数料		144,916		144,916
委託費		1,070,423		1,070,423
経常費用計	126,479,315	17,405,489	△89,336	143,795,468
評価損益等調整前当期経常増減額	△8,049,841	△622,973		△8,672,814
評価損益等計				
当期経常増減額	△8,049,841	△622,973		△8,672,814
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計				
(2) 経常外費用				
経常外費用計				
当期経常外増減額				
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△8,049,841	△622,973		△8,672,814
税引前当期一般正味財産増減額	△8,049,841	△622,973		△8,672,814
当期一般正味財産増減額	△8,049,841	△622,973		△8,672,814
一般正味財産期首残高	73,695,825	7,513,165		81,208,990
一般正味財産期末残高	65,645,984	6,890,192		72,536,176
II 指定正味財産増減の部				
一般正味財産への振替額	8,089,699	578,690		8,668,389
一般正味財産への振替額	8,089,699	578,690		8,668,389
当期指定正味財産増減額	△8,089,699	△578,690		△8,668,389
指定正味財産期首残高	508,593,792	8,007,703		516,601,495
指定正味財産期末残高	500,504,093	7,429,013		507,933,106
III 正味財産期末残高	566,150,077	14,319,205		580,469,282

財 産 目 録

令和 2年 3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金預金 普通預金 未収金 前払金	北洋銀行白石中央支店他5口座 診療報酬、診療報酬自己負担分他 前払家賃	運転資金として	13,965,618 13,965,618 17,346,824 70,000
流動資産合計				31,382,442
(固定資産)	基本財産			
特定資産	投資有価証券	札幌市平成27年度第9回公募公債他	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	49,982,970
	諸貯金	北洋銀行白石中央支店	管理活動財産として運用益を管理費の財源として使用している。	17,030
	退職給付引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、43,335,142円は公益目的事業会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている。	47,621,036
	減価償却引当資産	定期預金・普通預金 北洋銀行白石中央支店他2口座	右記金額のうち、4,285,894円は法人会計の引当資産であり、退職給付引当資産として管理されている。 右記金額のうち、36,827,010円は公益目的事業会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている。	39,471,608
	土地	4,819.66㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、2,644,598円は法人会計の引当資産であり、資産取得資金として管理されている。	347,016,000
その他固定資産	建物	1,793.7㎡ 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号	右記金額のうち、464,243,115円は公益目的保有財産であり、公益目的事業の施設に使用している。	497,434,011
	什器備品	応接セット他65点	右記金額のうち、33,190,896円は管理活動財産であり、法人会計の施設に使用している。	24,030,809
	減価償却累計額 △		右記金額のうち、23,920,264円は公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。 ⁵ 右記金額のうち、110,545円は管理活動財産であり、法人会計において使用している。	404,225,183

財 産 目 録

令和 2年 3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
固定資産合計	構築物	館名板他3点	公益目的保有財産であり、公益目的事業の設備として使用している。	7,414,959
	車両運搬具	ホンダ ストリーム他1台		2,207,755
	減価償却累計額 △ 電話加入権	日本電信電話㈱	公益目的保有財産であり、公益目的事業において使用している。	9,112,347
	預託金	リサイクル預託金 車輻2台分・事業所敷金		352,024
固定資産合計				602,256,132
資産合計				633,638,574
(流動負債)	未払金	職員及び商業者等に対する未払額	公益目的事業会計及び法人会計での給与手当及び経常経費の未払分である。	4,073,922
	未払消費税等 預り金	令和元年度消費税 社会保険料職員自己負担分		631,500 842,834
流動負債合計				5,548,256
(固定負債)	退職給付引当金	職員に対するもの	職員に対する退職金の支払いに備えたものである。	47,621,036
固定負債合計				47,621,036
負債合計				53,169,292
正味財産				580,469,282

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

個別原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

定額法

(3) 引当金の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式

2. 会計方針の変更

該当なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	49,982,970			49,982,970
諸貯金	17,030			17,030
小 計	50,000,000	0	0	50,000,000
特定資産				
土地	347,016,000			347,016,000
建物	125,157,980		9,393,035	115,764,945
什器備品	1,975,133		500,441	1,474,692
退職給付引当資産	44,194,198	3,426,838		47,621,036
減価償却引当資産	48,760,608		9,289,000	39,471,608
小 計	567,103,919	3,426,838	19,182,476	551,348,281
合 計	617,103,919	3,426,838	19,182,476	601,348,281

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当)	(うち一般正味 財産からの充当)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
投資有価証券	49,982,970	49,982,970		
諸貯金	17,030	17,030		
小 計	50,000,000	50,000,000	0	0
特定資産				
土地	347,016,000	347,016,000		
建物	115,764,945	110,880,661	4,884,284	
什器備品	1,474,692	23	1,474,669	
退職給付引当資産	47,621,036			47,621,036
減価償却引当資産	39,471,608		39,471,608	
小 計	551,348,281	457,896,684	45,830,561	47,621,036
合 計	601,348,281	507,896,684	45,830,561	47,621,036

5. 担保に供している資産

該当なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高（貸倒引当金を直接控除した残額のみを記載した場合）
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は次のとおりである。

（単位：円）

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	17,346,824		17,346,824
合 計	17,346,824	0	17,346,824

7. 保証債務（債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。）等の偶発債務
該当なし

8. 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
満期保有目的の債権並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	帳簿価額	時価	評価損益
北海道平成25年度第15回公募公債	30,022,955	30,747,000	724,045
札幌市平成27年度第9回公募公債	19,960,015	20,168,000	207,985
合 計	49,982,970	50,915,000	932,030

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
委託金						
地域移行支援事業	北海道		7,121,614	7,121,614	0	一般正味財産
高次脳機能事業	〃		1,596,100	1,596,100	0	一般正味財産
ひきこもり事業	〃		4,647,000	4,647,000	0	一般正味財産
ひきこもり事業	札幌市		11,203,020	11,203,020	0	一般正味財産
補助金						
コロナウイルス対策特別事業	札幌市		168,000	168,000	0	一般正味財産
民間助成金					0	
赤い羽根助成	札幌市共募	67,637		31,216	36,421	指定正味財産
合 計		67,637	24,735,734	24,766,950	36,421	

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

内 容	金額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	8,668,389
合 計	8,668,389

11. 関連当事者との取引の内容
該当なし

12. 重要な後発事象
該当なし

13. その他
該当なし

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	投資有価証券	49,982,970			49,982,970
	諸貯金	17,030			17,030
	基本財産計	50,000,000	0	0	50,000,000
特定資産	土地	347,016,000			347,016,000
	建物	125,157,980		9,393,035	115,764,945
	什器備品	1,975,133		500,441	1,474,692
	退職給付引当資産	44,194,198	3,426,838		47,621,036
	減価償却引当資産	48,760,608		9,289,000	39,471,608
	特定資産計	567,103,919	3,426,838	19,182,476	551,348,281

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	44,194,198	3,426,838			47,621,036

収 支 計 算 書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
(1) 基本財産運用収入	240,000	239,276	△724
基本財産利息収入	240,000	239,276	△724
(2) 特定資産運用収入	1,000	936	△64
特定資産利息収入	1,000	936	△64
(5) 事業収入	99,832,000	100,569,067	737,067
診療収入	68,200,000	69,068,216	868,216
研修事業収入	256,000	272,000	16,000
就労支援事業収入	3,145,000	3,054,780	△90,220
訓練等給付費収入	26,759,000	26,758,465	△535
就労支援自己負担金収入	562,000	536,800	△25,200
計画相談支援給付費収入	531,000	534,886	3,886
地域相談支援給付収入	67,000	0	△67,000
その他の事業収入	312,000	343,920	31,920
(6) 補助金等収入	24,774,000	24,735,734	△38,266
北海道委託金収入	13,507,000	13,364,714	△142,286
札幌市委託金収入	11,099,000	11,203,020	104,020
札幌市補助金	168,000	168,000	0
(8) 寄付金収入	357,000	356,300	△700
寄付金収入	357,000	356,300	△700
(9) 雑収入	351,000	552,952	201,952
受取利息収入	1,000	890	△110
雑収入	350,000	552,062	202,062
事業活動収入計	125,555,000	126,454,265	899,265
2. 事業活動支出			
(1) 事業費支出	114,162,000	113,822,417	339,583
給料手当支出	66,539,000	66,538,068	932
臨時雇賃金支出	10,031,000	10,015,722	15,278
福利厚生費支出	11,395,000	11,394,932	68
旅費交通費支出	1,600,000	1,598,777	1,223
通信運搬費支出	653,000	652,910	90
消耗什器備品費支出	305,000	304,480	520
消耗品費支出	2,764,000	2,762,671	1,329
修繕費支出	502,000	501,110	890
印刷製本費支出	148,000	147,784	216
燃料費支出	1,326,000	1,325,631	369
光熱水料費支出	2,344,000	2,241,613	102,387
賃借料支出	1,990,000	1,989,147	853
保険料支出	565,000	564,072	928
諸謝金支出	2,285,000	2,284,500	500
租税公課支出	1,256,000	1,255,007	993
負担金支出	489,000	488,778	222
委託費支出	5,347,000	5,339,023	7,977
雑支出	19,000	0	19,000
医薬材料費支出	20,000	2,711	17,289
デイケア材料費支出	984,000	905,841	78,159
利用者工賃支出	2,539,000	2,538,880	120
手数料支出	1,061,000	970,760	90,240
(2) 管理費支出	17,240,000	16,458,773	781,227
役員報酬支出	60,000	59,200	800

収 支 計 算 書

平成31年 4月 1日から令和 2年 3月31日まで

(単位 : 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
給料手当支出	12,431,000	12,281,987	149,013
臨時雇賃金	12,000	11,585	415
福利厚生費支出	2,218,000	2,061,835	156,165
会議費支出	56,000	18,282	37,718
旅費交通費支出	35,000	20,160	14,840
通信運搬費支出	159,000	62,047	96,953
消耗什器備品費支出	38,000	27,720	10,280
消耗品費支出	150,000	148,941	1,059
修繕費支出	42,000	27,234	14,766
燃料費支出	93,000	92,478	522
光熱水料費支出	176,000	134,836	41,164
賃借料支出	111,000	58,974	52,026
火災保険料支出	69,000	67,528	1,472
租税公課支出	68,000	66,893	1,107
負担金支出	215,000	55,146	159,854
雑支出	49,000	48,588	412
手数料支出	178,000	144,916	33,084
委託費支出	1,080,000	1,070,423	9,577
事業活動支出計	131,402,000	130,281,190	1,120,810
事業活動収支差額	△5,847,000	△3,826,925	2,020,075
Ⅱ 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
(2) 特定資産取崩収入	9,289,000	9,289,000	0
減価償却引当資産取崩収入	9,289,000	9,289,000	0
投資活動収入計	9,289,000	9,289,000	0
2. 投資活動支出			
(2) 特定資産取得支出	3,442,000	3,426,838	15,162
退職給付引当資産取得支出	3,442,000	3,426,838	15,162
投資活動支出計	3,442,000	3,426,838	15,162
投資活動収支差額	5,847,000	5,862,162	15,162
Ⅲ 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
Ⅳ 予備費支出	0		0
当期収支差額	0	2,035,237	2,035,237
前期繰越収支差額	0	23,798,949	23,798,949
次期繰越収支差額	0	25,834,186	25,834,186

収支計算書に対する注記

1 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、未払消費税等、前受金及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記 2 に記載するとおりである。

2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前 期 末 残 高	当 期 末 残 高
現 金 預 金	11,197,756	13,965,618
未 収 金	18,756,465	17,346,824
前 払 金	158,845	70,000
合 計	30,113,066	31,382,442
未 払 金	4,588,664	4,073,922
未 払 消 費 税 等	645,500	631,500
前 受 金	224,000	0
預 り 金	855,953	842,834
合 計	6,314,117	5,548,256
次期繰越収支差額	23,798,949	25,834,186

4 監 査 報 告

監 査 報 告 書

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

理事長 阿 部 幸 弘 様

私たち監事は、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿及び関連する書類の調査を行い、当該年度に係る計算書類等（貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

令和 2 年 5 月 21 日

公益財団法人 北海道精神保健推進協会

監 事

松下 貞則



監 事

日浅 尚子



資 料 編

1 理事・監事・顧問・参与・評議員名簿

(令和2年3月31日現在)

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	阿 部 幸 弘	こころのリカバリー総合支援センター所長
副理事長	池 田 輝 明	北海道精神病院協会会長 桑園病院院長
常務理事	中 川 悟	北海道精神保健推進協会事務局長
理 事	生 駒 一 憲	北海道大学病院リハビリテーション科教授
理 事	石 川 博 基	北海道精神神経科診療所協会会長 いしかわ心療・神経クリニック院長
理 事	小 出 英 子	NPO法人オーク会副理事長
理 事	竹 内 徳 男	北海道保健福祉部技監
理 事	竹 村 真 一	札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部長
理 事	中 村 末太郎	北海道精神障害者家族連合会会長
理 事	松 原 良 次	札幌精神科医会会長 札幌花園病院院長
監 事	松 下 克 則	北洋銀行常勤監査役
監 事	日 浅 尚 子	北海道新聞社常勤監査役
顧 問	伊 東 嘉 弘	元北海道精神保健推進協会理事長
参 与	岡 崎 大 介	北海道精神保健福祉センター所長
評 議 員	石 山 貴 博	NPO法人精神障害者回復者クラブすみれ会副理事長
評 議 員	大 澤 恵留美	北海道大学病院リハビリテーション部技師長
評 議 員	鎌 田 隼 輔	札幌市保健福祉局精神保健福祉センター所長
評 議 員	小 山 司	大谷地病院 臨床研究センター長
評 議 員	菅 原 悦 子	NPO法人札幌市精神障害者家族連合会会長
評 議 員	善養寺 圭 子	北海道家庭生活総合カウンセリングセンター理事長
評 議 員	田 熊 昭 紀	こころのリカバリー総合支援センター「リラの会」代表
評 議 員	舘 岡 芳 実	NPO法人オーク会ばる指導員
評 議 員	田 中 美奈子	こころのリカバリー総合支援センター医療参事
評 議 員	土 肥 一 一	こころのリカバリー総合支援センターOB会会長
評 議 員	西 村 正 樹	認定NPO法人DP I (障害者インターナショナル) 日本会議 副議長

2 財団法人設立から、今日までの経過等

- 昭和62年 7月 7日 財団法人設立準備委員会発足（第1回会議）
- 〃 8月10日 財団法人北海道精神保健推進協会（仮称）設立準備委員会（第2回会議）
- 〃 8月11日 財団法人北海道精神保健推進協会（仮称）設立発起人会（設立総会）
- 昭和62年 8月20日 民法第34条の規定に基づく財団法人北海道精神保健推進

			協会設立許可申請
〃	9月 1日	同上許可（北海道知事）	
〃	9月 1日	財団法人北海道精神保健推進協会事務局設置	
〃	9月10日	法人登記	
平成 元年	2月16日	「札幌デイ・ケアセンター」開設	
〃 21年	4月 1日	「こころのリカバリー総合支援センター」に改称	
〃 24年	4月 1日	財団法人から公益財団法人へ移行	
〃 26年	6月16日	就労継続支援B型事業所「こころカ・プロダクション」開設	
〃 28年	6月16日	就労移行支援事業所「ここスタ」開設	
〃 28年	6月16日	相談支援事業所「ココクル」開設	
〃 30年	4月 1日	就労定着支援事業所開設（こころカ・プロダクション内）	
令和 2年	4月 1日	就労移行支援事業所「ここスタ」の名称を多機能型事業所「こころカ・プロダクション」に統一	

3 施設の概要

(1)「こころのリカバリー総合支援センター」

所在地 札幌市白石区平和通17丁目北1番13号

建物構造 鉄筋コンクリート1部2階建

面積	敷地面積	4,819.66 m ²
	建築延面積	1,793.7 m ²
	・管理訓練棟	1,315.5 m ²
	(うち90.7 m ² を「ここスタ」「ココクル」で使用)	
	・体育館	463.20 m ²
	・附属建物	15.00 m ²
附属設備	テニスコート	1面

(2)「こころカ・プロダクション」

所在地 札幌市白石区平和通15丁目北13番18号

建物 民間住宅借上 木造3LDK 90.26 m²

4 基本財産

基本財産の総額は5,000万円で、すべて関係団体の寄附金及び北海道、札幌市からの出捐金であり、その内訳は次表のとおりである。

(単位：円)

機 関、団 体 名	金 額
北海道精神病院協会	10,000,000
北海道精神障害者家族連合会	10,000,000
札幌市婦人福祉推進協会	10,000,000
北海道	10,000,000
札幌市	10,000,000
計	50,000,000